

# 中塚侑先生との四半世紀

北山 和宏 \*1

**要旨：**中塚侑先生はわたしを PC 研究の世界へ導いて下さった恩人である。しかし岸本一蔵先生（近畿大学教授）によるとこれは中塚先生一流の「ひとたらしの術」にはまった、ということらしい。中塚先生の気配りの果てに頂戴した、先生お手製の鶏肉の薫製はとても美味しく、慈愛と滋養とに満ちていた。

**キーワード：**PC 研究、ひとたらしの術、恩人、鶏肉の薫製

## 1. 出会い

ここに「靱性部材配筋詳細研究委員会報告書」（日本コンクリート工学協会、1990 年 5 月）というタイトルの一冊の本がある。当時、阪大助手をされていた中塚侑先生と出会ったのはこの委員会においてである。ちなみに私は大学院博士課程を中退して、北関東にある某国立大学の助手に採用されたばかりの若輩であった。同じ助手とはいえ、中塚先生は既に中堅研究者として活躍されていて天地ほどの隔たりがあった。そのときに中塚先生が担当されたのは拘束コンクリートの圧縮特性であり、それに対して私は RC 柱はり接合部パネルからのはり主筋の抜け出し特性を担当しており、「重箱の隅」のような研究テーマの相互の関連はあまりなかった。そんなこともあって、その委員会において中塚先生とどのような会話を交わしたのか、全く覚えていない。しかし中塚先生の若輩者に対する物言いはいつもとても丁寧であった。さらに言えば、関東モンの私はこんなに関西弁丸出しの御方とお話ししたことはそれまでなかったことだけは確かである。

この JCI の委員会での二年間が過ぎると中塚先生とは疎遠になった。だが、委員会の名称は「靱性」であるが、このときの中塚先生との出会いは私の「人生」にとっては実は大きな意味を持っていたことが、後になって判明する。

## 2. 再会

兵庫県南部地震（1995 年）の発生から二年ほどたった頃、中塚先生が日本建築学会で主宰する小委員会の委員にならないかというお誘いをいただいた。中塚先生は上述の JCI での委員会活動のことを憶えていて下さったのだろう。今度は「PC 部材力学挙動予測法小委員会」という名前で、当然のごとくに PC 部材を扱う研究委員会であった。しかし私はそれまで PC 構造の P の字も扱ったことはなく、その分野で何が問題なのかも知らず、さらに言えばなぜ私にお声がかかったのかも分からなかった。そんな状況ではあったが中塚先生から縷々説得さ

れたのだろう、いつのまにか委員になっていた。しかしどうやらこれは中塚先生一流の話術らしく、あとになって関西の悪友・岸本一蔵さんから「ふっふっふっ、中塚先生の“ひとたらし”の術にはまりましたね」などと言われたものである。などと口の悪いことを書いたが、PC 構造を研究するきっかけを作って下さったのは紛れもない中塚先生そのひとなのである。

正直なところその当時は、RC 柱はり接合部の挙動を理解する上で、PC 構造を知っておくことも有益であろう、という程度の認識で始めたことであった。まさかそれが十年以上たった今日、PC 柱はり部分架構試験体を 50 体近く実験し（写真をご覧ください）、『PC 部材の構造性能評価指針（案）・同解説』の作成（2011 年現在、進行中）に携わるほどの大テーマになろうとは、想像もしていなかったのである。さらに付言すると PC 構造を研究しているひとは、その発展の経緯から関西の方が多く（もっと具体的に言えば大阪大学閥と京都大学閥）、同年輩の優秀な研究者や設計者（上述の岸本一蔵さん、竹中技研の菅田昌宏さん、日建設計の阿波野昌幸さん、京都大学の河野進さんなど）と知り合うことができたのも私にとっては大いなる収穫である。このように新しい研究の“種”と人脈を授けて下さった中塚先生は、私にとっては間違いなく恩人のひとりである。中塚先生には本当に感謝している（感謝の気持ちが感じられないですって、あははっ、それがアッシのスタイルでっせ）。

## 3. 転機

こうして PC 構造の世界に足を踏み入れたが、その後は順調に（？）PC 界にも慣れてきて、学会の PC 構造運営委員会のメンバーにもしていただいた。それまで私は中塚先生が主査を務める小委員会において、一委員として好き勝手なことを発言してきた。中塚先生も私のそのような態度を寛容にも容認して下さいようだ。

しかしそのような甘い態度を改めるときがやってきた。これは忘れもしないのだが 2006 年 9 月末、兵庫県の E-Defense で RC 建物の振動台実験を見学した後、新

\*1 公立大学法人 首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース 教授・工学博士（東京大学）

神戸駅に向かうバスのなかでのことである。中塚先生が「北山先生、ちょっとええでっか」といつものように微笑みながら私の隣にお座りになった。すぐ側に西山峰広先生も着席した。そのただならぬ気配に私はおののいた、何だろうと。そしてまたもや中塚先生のひとたらし、じゃなかった誠心誠意の説得が始まったのである。それは「PC 部材性能設計法小委員会」の主査をやってくれ、との依頼であった。私はそれまで自分の居場所はやはり RC 構造だと勝手に思っていたので、PC 界には腰を掛けている程度くらいに考えていた（不遜な物言いはご容赦を）。しかし中塚先生はそういう私の態度を見抜いた上で、こいつに責任ある仕事をさせよう、とお考えになったのだと思う。

私はその説得を受け入れ（でも、心を入れ替えた訳でもないのだが）、2007 年度からこの小委員会の主査を務め、現在に至っている。幸いにも委員諸氏のご尽力の介あって、2011 年夏の日本建築学会大会の PD でこの小委員会での成果を公表することができた。なんとか『PC 部材の構造性能評価指針（案）・同解説』をまとめ上げるめどが立ち、私は心底から安堵した。これで中塚先生からいただいたご恩に少しばかり報いることができたのではないかと思うからである。

#### 4. そして今

中塚先生に出会ってから、ほぼ四半世紀が過ぎた。中塚先生のおかげで私は今も PC 建物の耐震性能評価についての研究を行っている。RC 部材の耐震性能評価とか耐震設計法についてもまだまだ研究の余地があるように、PC 部材のそれについても研究の種はいくらでもある（ように私は思う）。中塚先生はめでたく研究者生活を全うされたが、私もしばらくは飯のタネには困らないことだろう。斯様に中塚先生から多大のご恩を蒙ったのだが、その御恩は私よりも若いひと達にお返ししようと思うので、どうかお許しくださいませ。

最後に鶏肉の薫製のお話を。大阪で委員会があったときに、日建設計近くの「美々卯」で懇親会があった。そのとき新幹線で東京に帰る私に中塚先生はお土産を持たせて下さった。いつもながら中塚先生の細やかなご配慮には頭が下がる。そのお礼に先生にお歳暮を贈ったのだが、そうしたらまたもやそのお礼に先生お手製の鶏肉の薫製（どうやら先生のご趣味のひとつらしい）をいただいたのである。「すごいね。料亭の味だね」とか言いながら家内とともに美味しくいただいたのであった。

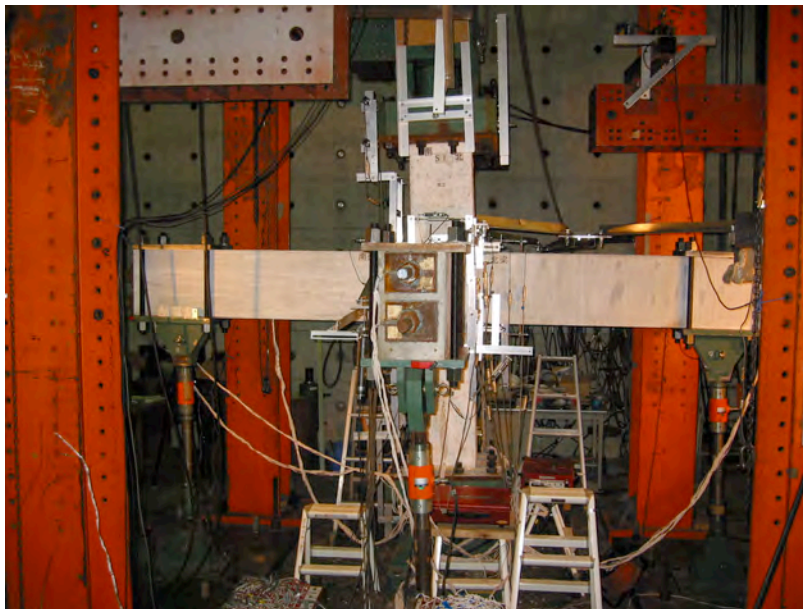


写真 PC 立体柱梁部分架構の三方向載荷実験(東京都立大学・北山研究室)